



滋賀県の名勝・唐崎神社の

からさきれいまつ

「唐崎霊松」の接ぎ木苗の里帰り

ー林木遺伝子銀行110番による樹木の増殖サービスー

ポイント

「唐崎霊松」を接ぎ木増殖した苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター関西育種場から唐崎神社（滋賀県大津市）に里帰りします。

概要

森林総合研究所林木育種センター関西育種場（岡山県勝田郡勝央町）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保全を図るとともに、これらを品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖するサービス「林木遺伝子銀行110番」を行っています。このサービスを利用した日吉大社馬淵宮司からの要請を受け、接ぎ木により増殖し育てた「唐崎霊松」の苗木が里帰りします。

- ・日時：令和2年2月28日（金曜日） 午前11時より（雨天決行）
- ・場所：滋賀県大津市唐崎1-7-1 唐崎神社
- ・本数：3本

問い合わせ先など

- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター 関西育種場
事業責任者：遺伝資源管理課 課長 坂本 庄生（さかもと しょうき）
担当者： 収集管理係長 山本 あゆみ（やまもと あゆみ）
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋（はやし かつひろ）
Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139
- ・日吉大社
担当者：禰宜（総務課長・広報担当） 矢頭 英征（やず ひでゆき）
Tel：077-578-0009 Fax：077-578-0134

本資料は、滋賀県政記者クラブに配付しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多くあります。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けていることから、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れていることが見込まれ、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、関西育種場では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により、衰弱しているこれら樹木の後継樹の苗木を増殖し、里帰りを行うサービス「林木遺伝子銀行110番」を平成15年から実施しており、当育種場では平成30年度までに90本の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを行ってきました。後継樹の苗木は、さし木や接ぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りする接ぎ木苗木の親木は、滋賀県大津市の唐崎神社にある「唐崎霊松」で、樹高約5.6m、幹周り(地面から1.2m)395cm(直径125.8cm)のクロマツです。

霊松が植えられている唐崎神社は滋賀県大津市の琵琶湖畔に鎮座し日吉大社の摂社であると共に近江八景「唐崎の夜雨(からさきのやう)」で知られる景勝地となっています。

日吉大社によると、初代の霊松は舒明(じょめい)天皇5年(633)に、二代目は天正19年(1591)に植樹され、樹勢が衰えてきた明治20年(1887)に後継樹として植えられた実生の松が現在の霊松で、三代目となります。その後約130年の間に起こった自然災害による折損等で幹内部の空洞化が進み、平成29年頃より樹勢が急激に衰え、半分を切断せねばならない状況となり、同大社は、三代目霊松の顕彰(種の保存)とその育成を図ることとしました。

平成30年6月に日吉大社より林木遺伝子銀行110番に申請がありました。翌年2月に親木から枝(穂木)を採取し、当育種場で接ぎ木増殖を試みました。無事増殖に成功し、野外に植栽しても生育できる見込みがたった3本を令和2年2月28日に里帰りさせることとなりました。

写真



唐崎霊松



里帰りする苗木